

平成25年度北海道校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：釧路市
- 2 事例報告学校名：釧路市立新陽小学校
- 3 報告者職・氏名：校長 三枝 行 憲
- 4 キーワード：学力向上、きめ細かな指導、一貫した指導と継続、取組の検証



釧路市立新陽小学校 「一貫した指導」

1 はじめに 協力的な保護者・地域

本校は、昭和37年9月に開校し、今年で開校51年目を迎えます。太平洋に面していることから、校章は太平洋の広大な力強さを強調することにより、希望に満ちた児童の姿を表



しています。児童は素直な子が多く、学年の枠を超えて交流するなど大変仲が良く、日常的に楽しく遊んだりしている様子をよく目にします。

また保護者や地域には、学校教育への支援を惜しまない伝統が受け継がれ、様々な活動に対して協力的です。

しかしながら、学校周辺には、新興住宅街などは見られず、児童数の減少化が課題であり、現在9学級、児童数159名の学校です。

2 学力向上の取組 授業での実践



① 授業づくりを中核とした研究

「生き生きとした姿で学ぶ子どもの育成」を研究主題として掲げ、確かな学びを深める指導方法の在り方を究明しています。

2年計画の予定ですが、つけたい力を明確にし、一人一人の読みを確かにする授業づくりに取り組んでいます。

確かな読みは、全教科に通じるものである

ので、他教科への波及も期待しているところですが、特に国語の授業においては音読を必ず取り入れる「毎時間音読実践」、また算数の授業の終わりに行う「確認テスト」を現在実践中です。

算数の確認テストは、プリントや教科書問題に取り組む場合やシンプルではあるが挙手による振り返りもあります。1単位時間を大切に取る取組であり、教師にとっては授業目標達成の振り返り、子どもたちにとっては、自分自身の振り返りの場面として、確かな学力定着の大きな基盤となっています。授業での実践は、短い時間であっても一貫性・継続性が伴うことにより、実効性のある取組となると考えています。

② 学校・家庭との連携～パワーアップカード、家庭学習の手引き、学習のきまり



子どもたちの生活習慣と学習習慣の定着（読む活動の時間、家庭学習の時間）など学年ごとの発達段階・地域特性を考慮しながら、家庭と連携した取組を推進しています。

「家庭学習の手引き」の活用や「学習のきまり」の定着化への努力も効果があり、成果は現れてきていますが、取組の効果を検証していくために、月ごとのパワーアップカードの状況を

集計し、改善点等を検討しています。「子どもたちの変容を把握し、成果と課題を明らかにすること」「全教職員が改善点を共有し、具体的な方策に取り組むこと」を重点として取り組み、改善を継続していくように取り組んでいます。

③ きめ細かな指導の充実～少人数指導、補充的学習サポート



算数科を主としたTT指導を取り入れ、週単位で計画的に指導しています。学習内容や児童の実態に応じて、単純分割、課題別選択、習熟度別などのグループ編成で授業を進めます。

基本的には、2～3グループに分け、少人数指導担当者、退職教員等外部人材活用事業の非常勤講師などを活用し、きめ細かな指導を行っていることが、基礎・基本の定着に繋がっていると考えています。



また、釧路市の全小中学校で取り組んでいる長期休業中の補充的学習サポートも3日間取り組んでいます。本年度の夏季休業中の学習サポートは、実践的な課題を踏まえ、新たな視点として、一人一人の基礎・基本の定着に重点を置き取り組みました。国語は、学力テスト結果分析で課題となった漢字学習、算数は基礎的な計算に取り組みました。

3 おわりに 取組の効果を検証

全国学力・学習状況調査や市独自の学力検査の結果を見ると、取組の成果が確実に表れていると考えています。これまでの取組や調査結果、教職員の観察等を基に、子どもたちの生活や学力の実態を確認し、目標実現に向け具体的な方策を施し、一貫した指導を行ってきた成果だと考えている。今後も、一步一步着実に確かな学力が育まれるように、成果と課題を整理し、全職員で教育活動の改善に取り組んでいきます。